



ゆすはら町議会だより

四万十源流

令和3年4月20日

第115号

題字 議長 土釜 清



3月 定例会(第357回)

議会3月定例会は、3月8日から12日までの5日間の会期で開催した。

今定例会では、令和3年度に臨む町の施政方針の説明が行われたほか、議案審議では、令和3年度各会計歳入歳出予算を総務教育厚生常任委員会に付託、産業建設常任委員会との連合審査会とし、10日、11日に集中審議を行った。また、各会計補正予算、梶原町国民健康保険税条例、梶原町国民健康保険条例、梶原町介護保険条例などの一部改正や、工事請負契約変更、指定管理者の指定、固定資産評価審査委員の選任など本会議で審議を行い、すべての議案について原案どおり全会一致で可決した。

一般質問には、下元議員が「新型コロナウイルスへの対策」「新たなホテルの建設」について、町の考えを問いただした。

表紙写真の紹介



梶原子ども園卒園式と梶原学園入学式の様子

行政報告

〈目次〉

行政報告
2

施政方針
3

予算連合審査
4~6

3月定例会
での決定
7~10

一般質問
11

町長は、令和2年12月定例会以降における諸般の行政について、次の項目の報告をした。

総務課関係

- ・梶原町選挙管理委員会について
- ・梶原町地域公共交通会議について
- ・地方自治体を対象とした土砂災害対応訓練
- ・新型コロナウイルス感染症対策本部会について

企画財政課関係

- ・株式会社雲の上について

まちづくり推進課関係

- ・空き家活用促進事業について

保健福祉課関係

- ・厚生労働大臣表彰受賞について
- ・高知県社会福祉大会会長感謝状受賞について

環境整備課関係

- ・梶原町脱炭素型地域新電力事業勉強会について

産業振興課関係

- ・梶原町チャレンジ起業支援事業補助金について
- ・畜産公社理事会、臨時総会について

森林の文化創造推進課関係

- ・ゆすはら産業担い手育成塾について

生涯学習課関係

- ・梶原学園1~4年生タレット導入について
- ・梶原学園6年生と特別職の意見交換会について
- ・成人式について
- ・未来の学びフェスティバルオンラインキャリア講演会について



施政方針を述べる吉田町長

令和3年度に臨む施政方針については「広報ゆすはら」に、詳しく掲載されますので、吉田町長となり3年が経過し、任期の最終年度を迎えるにあたっての考え方を抜粋して掲載いたします。

令和3年度に臨む施政方針

●第7次梶原町総合振興計画及び第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の地域ビジョンの実現

世界の課題解決先進地域として経済を再生し、自然とともにある豊かな町民生活を実現することにより、町民の皆さんの笑顔があふれ、訪れた人が「来て良かった」「何度でも来たい」「ここで住みたい」と思っただけ、さらにそのことによって町民が自信と誇りを持ち、幸せな笑顔になるプラスのスパイラルを産み出し、持続的に輝き続ける町づくりに取り組む。

●住民福祉の向上にしっかりと取り組んでいく

専門的な知識や経験、人とのつながりを持っている大学や民間企業など時代の先端にある皆さんの力を借りながら、課題の発見と解決法を職員と共に学び、その解決に結び付けることによって経済を再生し、自然とともにある心豊かな町民生活を実現することを目指していく。

●持続可能な町として引き継がれていくための取り組み

ハード面での安全の確保に取り組みながら、心豊かな暮らしを実現するため、令和3年度は引き続き、産業の振興、教育の振興、福祉の充実に重点的に取り組む。

1. 産業の振興

- ①近年本町でも大きな可能性を秘めていることが見えてきた観光産業の充実と新たなモノづくりとして食品加工産業の創出に取り組む。
- ②本町の特性を生かした農林水産業の振興のための条件整備に加え、特産品や商品開発に取り組み新たな視点から価値を高めることで、雇用の確保と経済の再生に挑戦していく。
- ③新たに事業を起こしたいと考える皆さんを応援することで、この町に賑わいと活力が生まれることを目指す。
- ④移住定住対策の充実を図ることにより、本町が子や孫の世代に幸せな暮らしを繋げられる持続可能な町となることを目指す。

2. 教育の振興

- ①地域の宝である子どもたちが地元高校から進学や就職など夢を叶えられるための条件整備に取り組んできており、引き続き学びの充実のための支援事業に取り組む。

3. 福祉の充実

- ①地域包括ケアの充実により、町民の皆さんが健康で明るい暮らしを送っていただけるよう、この町で住み続けることができる取り組みを進めていく。

上記の取り組みを実現するために以下6つの社会を目指す

- ・梶原ならではの保健、医療、福祉、介護が充実した社会
- ・自身あふれる梶原人を育てる教育の確立した社会
- ・次世代へより良い環境を引継ぐ社会
- ・魅力ある生業の創出と地域を支える産業が発展した社会
- ・助け合い支え合いながら暮らす社会
- ・世界の人々とつながり支持され選ばれる社会

令和3年度予算を徹底審査

新年度予算総額 82億 7,800万円を可決

令和3年度の一般会計をはじめとする各会計当初予算の審査は、総務教育厚生常任委員会に付託され、付託を受けた総務教育厚生常任委員会は、産業建設常任委員会に連合審査を要請し、3月10日、11日に執行部幹部職員の出席を求め審査を行い、一般会計予算、病院事業会計予算及び特別会計予算10件の全予算については、いずれも全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決定した旨の審査報告書を、12日に議長に提出した。

連合審査での主な質疑・答弁

【総務費(二つ二つ)】

問 下元秀俊

「P電話等端末機の不具合の音が多く寄せられている。通話ができない、雑音が多く会話聞き取れない、町内放送が聞けないなど。大切なお知らせや情報が伝わらないことは安心安全な暮らしの不安材料であり、調査をしっかりとすべきである。」

答 総務課長

現在の端末機の不具合については承知している。端末機の経年劣化が原因。端末機の更新時期も近いことから財源の確保と更新計画をしており、今は修繕で対応。連絡先など役場からチラシなどで町民にお知らせするなどの対応をしていく。

問 西川豊正

「各地域での応援隊は重要な人材と思うが、人材確保は的確に行われているか。」

答 まちづくり推進課長

当初予算では9人の予算を計上していたが、集落活動センターの要望に基づき連絡協議会で協議、要望であらう。

たものを予算計上している。センターの事情に応じて必要な人材を雇用している。

【衛生費(二つ二つ)】

問 西川慶男

「歯科診療所について、西町に仮の設置ではなく、本体の歯科診療所を設置して、今現在あるところには新しいものが建設されるまでは今の状態で診療して、その後移転すれば良いのではないか考えるが、いずれにしても十分検討して進めるべきだろうというふうな思いが、見解を求める。」

答 町長

歯科医科連携ということで、特に老年寄りの皆さん、あるいは障害のある皆さんが道の向かい側でそれぞれの医科、歯科の診療を受けることができる、そうしたこともふまえ、様々な条件を判断したときに、今の段階では現地で建て替えていくことが望ましいと考える。

【農林水産業費(二つ二つ)】

問 下元秀俊

「ゆずはらワイン造り担い手育成事業について、担い手育成業務委託料として190万円あまりの予算を計上しているが、これまでは農政アドバイザーが担当していたが、コストということも意識してやらないといけない。どこに委託するのか。」

答 産業振興課長

地域おこし協力隊を募集して雇用するように考えている。ワイン造りに興味のある方を畜産公社で雇用してもらいワイン造りに取り組んでいく。それまで現在の担当者が育成していき引き継ぎできるようにする。

問 中越計清

「農業基盤整備事業補助金について、農家から要望も強い黒パイプも補助対象とすべきではないか。」

答 産業振興課長

補助対象の要綱に入っておらず、要望もなかったため増えてくるようであれば方法を検討していく。

市川岩亀

問 アメゴ養殖事業補助金について、アメゴは溪流の女王と言われ、清流梶原川を代表する魚であるが、現在の養殖業者が廃業されると聞く。その後、継続を計画しての補助金の計上だが、どこで、誰が行うのか伺う。

答 産業振興課長

令和3年度で現養殖業者が廃業したとのことであるが、これはぜひ残していかなければならない産業である。越知面の集落活動センターで継続いただく予定で、場所については水量、水温を調査したうえで今の場所も含めて調査をし、適地を決めていきたい。

【商工費について】

西川豊正

問 高原祭りやグルメ祭り等、各種イベントが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっているが、コロナ対策をしっかりと行い、行事を検討してはどうか。

答 産業振興課長

高原祭り、グルメ祭りについては、現在順次進めており、高原祭りは松山出身の方を押さえ、グルメ祭りは実行委員会検討し、商工会青年部が中心となりという形で開催できるか検討をしている。今年のカレンダーには載せていないがなんとかできるような方向で検討していきたい。

下元秀俊

問 観光協会運営委託料として、2千862万円が計上されているが運営委託料の内訳は何か。また太郎川公園の新ホテル建設主体であると思うが観光協会の事業内容、予算計画、経営計画など十分な議論を重ねた上で観光協会が設立運営されることが本来の手続きではないのか。公金をもって出資していくようになることからきちんとした経営数値で明示すべきである。

答 産業振興課長

委託内容は観光案内、自転車レンタル事業、視察受け入れなどで、人件費、需用費、役務費である。内容については3月26日に設立総会を予定しておりその際に決定する。

【教育費について】

下元秀俊

問 未来の教室事業委託料について、一昨年のイングリッシュキャンプに私も参加させていただき感銘を受けたが、今年はコロナの影響で実施できずに残念である。コロナ禍によりWebセミナーなど新たな取り組みは高く評価できる。本町の子どもたちにとって貴重な学びの場になっており、長期的な視点でしっかりとした予算をとって取り組んでもらいたい。

生涯学習課長

答 イングリッシュキャンプは子どもたちにとって夢や自信をもって未来を切り開いていける貴重な機会であり、保護者や子どもたちが参加しやすい形での事業に取り組んでいく。

答 教育長

2月のセミナーでは梶原高校生も実行委員として参加してもらい有意義なセミナーとなった。来年度も引き続き開催したい。今後はZoomなどを使って家庭で保護者と一緒に行えるような体制も作っていく。



一昨年のイングリッシュキャンプの様子

西川豊正

【国民健康保険事業特別会計】

西川豊正

問 歯科診療所の設計監理委託業務費が計上されているが、規模、設置場所、完成予定等、現在の状況は。

答 病院事務長

歯科診療所は、昭和58年3月に竣工され、現在38年が経過、耐用年数24年で老朽化している。このため、建て替えを検討していくことになっている。歯科医師については、保健指導、健康管理などを通じて、医療と連携をした取り組みが必要で、梶原病院に近いところが最適で、現歯科の跡地を候補地として検討しており、今年度仮設計等を行い、令和5年度をめどに歯科営業を検討している。



建て替えが検討されている梶原歯科診療所

栲原病院・四万川診療所・松原診療所

10日の連合審査には、栲原病院の池田院長の出席を要請し、病院の現状等についての説明を求めた。

池田院長からは、栲原病院が目指す地域医療について、良質なプライマリケアの提供、救急医療の確保、保健予防活動の3つの項目の概要説明があった。また、それら3つの項目を達成していくため具体的に病院としてやっていくべき役割として、地域包括ケアシステムの充実、15次救急・災害医療への対応、保健・介護・福祉との協働、行政との連携、住民との絆、地域医療の教育の場の6つの話があった。

最後に、予算審査には直接関係はないが、全世界で流行している、新型コロナウイルス感染症についての詳しい話があった。

栲原病院については、医療体制、外来、入院患者数の推移等の説明があり、外来患者数は、過去6年間で徐々に減少し、令和2年度においては2万5千人余りとなっていること、入院患者数についても、前年度を大きく下回り、直近6年間で最も少なくなり年間入院患者数が5千人台となったという報告があった。令和3年度の医師体制については、今年度より1人減の内科常勤医が4人となる。



新型コロナウイルス感染症対策のため発熱外来を実施する栲原病院

四万川診療所、松原診療所ともに1日の外来患者数は前年度と比較して増加している。この要因については、新型コロナウイルス感染症対策の必要性から、両診療所ともに診察日数を1日減らしたことによるものであり、総患者数が増加したというわけではない。新型コロナウイルス感染症対策の継続は今後も必要であり、来年度以降も両診療所の診療日数は現状維持していきたいと考えているという報告があった。

令和3年度栲原町各会計当初予算の状況

(単位：千円)

会計別	令和3年度	令和2年度	対前年度比
一般会計	6,700,000	6,855,000	▲155,000
松原診療所特別会計	24,700	20,100	4,600
四万川診療所特別会計	17,700	13,500	4,200
国民健康保険特別会計	547,000	555,000	▲8,000
後期高齢者医療特別会計	67,900	68,200	▲300
介護保険事業特別会計	591,000	562,000	29,000
簡易水道事業特別会計	126,300	126,600	▲300
農業集落排水事業特別会計	32,200	35,900	▲3,700
下水道事業特別会計	72,200	96,100	▲23,900
風ぐるま事業特別会計	14,700	81,700	▲67,000
病院事業会計	687,252	666,916	20,336
給与等集中管理特別会計	1,043,000	1,017,000	26,000
単純合計	9,923,952	10,098,016	▲174,064
各会計間重複控除額	1,645,517	1,637,010	8,507
差引純計額	8,278,435	8,461,006	▲182,571

閉会中の所管事務調査事項

各委員会は、6月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

〈議会広報編集委員会〉議会広報の発行について

議案審議の概要

3月定例会に提案され審議した主な議案についての概要（※質疑は抜粋）

補正予算

〔一般会計補正予算（第7号）〕

主な補正内容は、総務費で防災デジタル同報システム整備工事2千732万2千円の減額、民生費で複合福祉施設管理運営委託料1千300万円の減額、衛生費で、過疎地域での救急や災害時の拠点となる公立病院に対し特別交付税措置が拡充されたことに伴う病院事業会計への繰出金2千196万7千円の増額、農林水産業費で、新食肉センター施設整備費負担金2千901万6千円、面積確定に伴う中山間地域直接支払交付金1千7万円の減額、土木費で機械賃借料1千万円の増額、ふれあい道路補助金1千526万円、がけくずれ住家防災対策事業の工事請負費592万6千円及び補助金1千633万5千円の減額、教育費で奨学資金貸付金528万円、国際人育成事業補助金200万円、中学校棟LED化照明工事456万1千円の減額他で、歳入歳出それぞれ3億1千638万7千円を減額し、その総額を75億9千979万5千円としようとするもの。

可決（全員賛成）

問 西川慶男

今回の減額補正において、新型コロナウイルス感染症関連の事業が中止もしくは延期になったことは理解したが、その他にも大幅な減額になっている事業等もありもつと補足的な説明をすべきでは。

答 町長

認めていただいた予算を、積極的に町民の皆さんにお知らせしながら、役に立つように執行もしていかなければならないと思っております。減額が必要になってくるものについては、一定事前にこういうことで減りますというようなことも含めて情報提供ができたらというふうに思っています。

問 下元秀俊

梶原町観光PR動画制作委託料について内容の説明を。

答 企画財政課長

第7次梶原町総合振興計画並びに、第2期梶原町まち・ひと・しごと創成総合戦略への取り組み内容を撮影、記録して、本町の取り組みを県内、全国に発信していくとともに、後世に伝えていく資料として制作する動画。多くの方に視聴してもらい全国発信することで、Uターン・Iターンの拡大や関係人口の増加につなげていきたい。

問 下元秀俊

梶原町指定寄付金の内容の説明を。

総務課長

答 総務課長
総務課関係で、指定寄付28件、627万5千円、香典返し118万9千円となっている。

問 下元秀俊

ふるさと納税、企業版ふるさと納税については、コロナ禍の影響もあり集ごもり需要の増加により全国的に伸びている。町内産物、隣接地域の産品を含めて返礼品にもしっかり取り組んで伸ばしてもらいたい。

答 まちづくり推進課長

昨年で160%ほどの伸びとなっている。今年度集落活動センター連絡協議会が中心となり、コロナ対策交付金を活用して、小さな拠点ふるさと応援事業を行った。町出身の学生、在阪ふるさと会、東京雲の上の会、未来大使、梶原ゆかりの方々に町産品を送り、その影響もあって100件を超えるお礼をいただいたことなども寄付が増加した要因と思われる。今後、町の事業者と返礼品として一緒に取り組んでいきたい。物品だけでなくお墓掃除や空き家の管理といったサービスなども返礼品として検討していきたい。

問 西川 豊正

がけくずれ住家防災対策事業について、防災事業の遅れを感じるが、何が原因か。また、優先順位や現在の状況は。

答 環境整備課長

要望に対して実施速度が遅れているとの声も聞こえている。基本的には要望に沿う形で予算化しているが、業者手持ち事業量の兼ね合いもあり、計画どおりに進んでいないところである。引き続き地元要望を聞き取りながら順次進めていく。

問 中越 計清

中山間地域等直接支払交付金1千万円余りの減額は、土地の所有権、相続登記がでない農地のため、交付金の対象にならなかったということなのか。農業振興から考えて、このような農地について、町長の英断、決断によって町単で対応すべきではないか。

答 産業振興課長

一番大きい要因としては維持管理分。今まで入っていた維持管理分が初年度は対象になっておらず、その減額が多いのであり2年目からはもう少し上がっていくと思う。

答 町長

農地がうまく相続登記されていないため、所有権という定義が厳格に適用され大きく減額となっている。そして所有者の高

齢化により先の維持管理が困難で、迷惑をかけてはいけないと思ひ遠慮されている方もいると聞いている。本制度は国の制度で運営しており、これまでに町単での対応は記憶していない。

【風ぐるま事業特別会計補正予算(第2号)】

次期風力発電所実施設計委託料の繰越明許費の上限を設定しようとするもの。

可決(全員賛成)

問 下元 秀俊

カルストに建設予定の風車の進捗状況は。

答 環境整備課長

2基の風車を1基にリプレースしようとして進めている。昨年度予算で風況調査と解析を実施した。風況が大変良い場所ということと、極地風速を計測して計算し、解析作業を終えた。先日輸送路の検討や機種の設定といった作業を発注したところである。四電エンジニアリングと契約して、現在設計業務を行っている。風車の大きさは従来同様に2千キロワット級の風車1基であるが、当初想定したメーカーが撤退したことから新たなメーカーでの検討を行っている。

令和3年度各会計予算

【令和3年度各会計予算に対する総括質疑】

令和2年度からの機構改革に伴う職名の変更に伴い関係する条例の改正を行うもの。

問 下元 秀俊

財政均衡(プライマリーバランス)及び地域おこし協力隊の活用について考えを問う。大変厳しい中新規事業を含め事業量の増加に伴い、町の財政負担が増加していくことが懸念される。財政均衡ということをごどのように考えるか。

答 副町長

財政運営計画をしっかりと立て、各課による財源取得の努力をしてもらう。また、住民の皆さんにも我慢をお願いすることもあ。歳入を見ながら歳出を決めていきたい。

答 町長

「入りを量りて出を制す」を基本として、補助事業や有利な起債、そしてこれまで蓄積してきた基金も有効に活用し、将来に向かってしっかりと投資を行い町民の福祉向上に結び付けていく。

問 下元 秀俊

地域おこし協力隊がわが町の新たな事業の推進役として活躍いただいている。この若者たちが本町の資源と資産を活用し町づくりに貢献いただきたいと思うが町長の考えは。

答 町長

特別交付税措置されており様々な形で取り組んでいく。

その他

【工事委託契約変更について】

町道佐渡鷹取線の道路改良工事における梶原町への技術支援に関する平成28年～32年度委託契約について、事業費及び契約の相手方並びに工期を変更する必要が生じたことから、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるもの。

可決（全員賛成）

- ・変更後の金額 25億3千100万円
- ・増減額 2億2千300万円減
- ・変更後の完成期限 令和4年3月31日
- ・増減日数 365日増
- ・契約の相手方 高知県 高知県 高知県知事 濱田省司

【工事請負契約変更について】

令和2年度都市防災総合推進事業 旧四万川小学校原子力災害対策施設整備工事について、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるもの。

可決（全員賛成）

- ・変更後の金額 7千828万7千円
- ・増減額 1千558万7千円増

- ・変更後の完成期限 令和3年3月30日
- ・増減日数 0日
- ・契約の相手方 株式会社四万川総合建設

【指定管理者の指定】

梶原町の公の施設に係る指定管理者の指定手続き等に関する条例に基づき、「鷹取の家」「福祉の館」の各施設について指定管理者の指定期限が、令和3年3月31日をもって満了となることから、同条例第5条の規定により、指定管理者の候補者を選定したので、地方自治法第244条の2第6項の規定に基づき、議会の議決を求めるもの。

可決（全員賛成）

- 施設の住所及び名称
 - 住 所 高知県高岡郡梶原町下折渡210番地
 - 名 称 鷹取の家
- 指定管理者となる団体の住所及び名称
 - 住 所 高知県高岡郡梶原町下折渡210番地
 - 名 称 特定非営利活動法人はつせ
- 代表者 矢野 敬明
- 指定期間 令和3年4月1日～令和8年3月31日
- 施設の住所及び名称
 - 住 所 高知県高岡郡梶原町梶原1437番地
 - 名 称 福祉の館
- 指定管理者となる団体の住所及び名称
 - 住 所 高知県高岡郡梶原町梶原1437番地
 - 名 称 福祉の館運営協議会

- 代表者 西川 豊正
- 指定期間 令和3年4月1日～令和8年3月31日

【固定資産評価審査委員会委員の選任に付き同意を求めることについて】

地方税法第423条第3項の規定により議会の同意をお願いしようとするもの。

同意（全員賛成）

- 住 所 梶原町横貝
- 氏 名 川上寿久
- 期 間 令和3年3月26日～令和6年3月25日
- 住 所 梶原町下本村
- 氏 名 梶原哲哉
- 期 間 令和3年3月26日～令和6年3月25日
- 住 所 梶原町梶原
- 氏 名 西村壽勝
- 期 間 令和3年3月26日～令和6年3月25日

職員の紹介

4月1日付の人事異動に伴い、議会事務局職員の移動がありました。
5年間、事務局長を務めた大川真一郎君が産業振興課長に、その後任として会計管理者から議会事務局局長に市大美奈君を迎えることになりました。
両君の今後のご活躍をお祈りします。



議案一覧と議員賛否状況

議案一覧と議員賛否状況（賛成○、反対×、議長は裁決に加わらない）

議案番号	議案名	審議結果	1	2	3	4	5	6	7	8
			森田呂弥	西川豊正	下元秀俊	高橋基文	土釜清	市川岩亀	中越計清	西川慶男
第1号	令和2年度一般会計補正予算（第7号） 総額を75億9,975万5千円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第2号	令和2年度松原診療所特別会計補正予算（第3号） 総額を2,089万1千円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第3号	令和2年度四万川診療所特別会計補正予算（第3号） 総額を1,288万7千円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第4号	令和2年度国民健康保険特別会計補正予算（第3号） 総額を5億7,580万円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第5号	令和2年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号） 総額を6,754万6千円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第6号	令和2年度介護保険事業特別会計補正予算（第3号） 総額を5億4,547万円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第7号	令和2年度簡易水道事業特別会計補正予算（第2号） 総額を1億2,387万8千円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第8号	令和2年度農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号） 総額を3,862万8千円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第9号	令和2年度下水道事業特別会計補正予算（第2号） 総額を9,150万円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第10号	令和2年度風ぐるま事業特別会計補正予算（第2号） 線越明許費の上限を設定しようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第11号	令和2年度病院事業会計補正予算（第3号） 収益的収入及び支出の総額をそれぞれ、4億8,048万7千円、 5億8,484万3千円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第12号	令和2年度給与等集中管理特別会計補正予算（第2号） 総額を9億7,581万4千円にしようとするもの	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第13号 第24号	令和3年度各会計予算 審査概要については4～5ページを参照	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第25号	梶原町監査委員の設置及びその事務執行に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第26号	梶原町長期継続契約とする契約を定める条例の一部改正について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第27号	梶原町文化財保護条例の一部改正について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第28号	梶原町思いやり家庭支援金支給条例の一部改正について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第29号	梶原町国民健康保険税条例の一部改正について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第30号	梶原町国民健康保険条例の一部改正について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第31号	梶原町介護保険条例の一部改正について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第32号	梶原町バイクライダー交流宿泊施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第33号	町道の認定について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第34号	工事委託契約変更について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第35号	工事請負契約変更について	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第36号	指定管理者の指定について（鷹取の家）	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第37号	指定管理者の指定について（福祉の館）	可決	○	○	○	欠	—	○	○	○
第38号	固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	同意	○	○	○	欠	—	○	○	○
第39号	固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	同意	○	○	○	欠	—	○	○	○
第40号	固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	同意	○	○	○	欠	—	○	○	○

3月定例会での決定



下元秀俊 議員

問 総事業費38億7千万円、ホテル建て 替えは規模縮小、見直しすべき

建設規模、機能などコロナという事情も ふまえて再検討する

答 町長

◎長引くコロナ禍の影響はさらに長期化が予想され今後の経営環境の悪化も懸念される。

問 今後の状況変化もしっかりと確認し、必要があれば支援もしていくという考えが大切である。町長の考えは。

答 町長 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、経営持続化交付金の交付を行った。また、濃厚接触者への支援や、梶原GOTOキャンペーンの実施、プレミアム商品券事業などを行った。さらには森林事業者には木材搬出支援事業費補助金を創設し支援を行った。今後も、状況を見据えてしっかりと取り組んでいく。

◎町民とのコミュニケーションの在り方についてこの1年間コロナ禍による自粛ムードが常態化してきた。町民とのコミュニケーションは激減し、人間関係も希薄になってきた。「不安や心配、希望、

意見など、何処にいえば良いのか、だれにいえば良いのか」など町民からの声が増えてきている。

問 この1年の振り返り、今後の対応を問う。

答 町長 この1年、感染防止ということだけでなく、傾聴するということもできていなかったように感じている。今、コロナに対する一定の知見ができてきた、三蜜を避け感染防止を図ったうえで、町としてできることを考えていく。

問 町民の声を聴く手段として「ご意見箱の設置」を提案する。ソーシャルネットの活用やコロナの状況を見ながら、地区懇談会や各集落での意見交換会など感策を取りながら対話の機会を作ってもらいたい。

答 町長 「誰に言ったらよいか分からない」とい

うことは、組織の問題でもあるのでスムーズに声が届くように努力する。また、「ご意見箱」の設置も検討する。

SNSについては、フェイスブックなどソーシャルネットワークというものも使いながら情報提供もしていきたい。今後どうすればできるのか一緒に考えていく。

◎新ホテルの建設計画について。

問 コロナ禍によりこの見通しが不透明である。海外からのインバウンドも消滅した。38億もの建設費による将来負担の増加、町内宿泊業との連携、経営主体、コロナ対策、温泉、プールの老朽化と修繕費の増加、将来の建て替え、役場庁舎、図書館と複合施設ゆりをはじめ多くの施設の維持管理費の増加と人件費の増大など将来負担は増加する。住民からも皆がコロナで苦しい思い

をしている時に、こういった大きなホテルが必要なのか？といった疑問の声もある。投資規模の見直し、一次産業をはじめ他産業への投資、インフラ整備、教育費などに投資することが今あるべき姿である。町が稼いで分配するということより、多くの住民がともに取り組んでこそ全体のポトムアップや人材創出、地域活力向上につながり地域経済の再生が可能になる。見直すべきである。

答 町長 中国インバウンドの消失、ワーケーション

など新しい旅行スタイル、マイス型観光もウエブ会議になり、リモートワークに変化している。新型コロナウイルスの感染拡大という大きな状況変化も加味して、実施設計に当たっては、その規模や機能、また町内の宿泊業との連携の在り方、コロナ対策など検討する場を設けて、道の駅とともに観光産業の拠点となり、その結果町民の幸せにつながるより良い施設となるようより慎重に進めていく。

産業建設常任委員会において、令和2年12月18日第36回12月定例会で、閉会中の調査付託を受けた産業に関する件について、2月中での調査を予定していたが、高知県内における新型コロナウイルス感染症の感染状況等を鑑み、感染拡

産業建設常任委員会

委員長 高橋基文

副委員長 中越計清

委員 西川豊正

委員 下元秀俊

委員 市川岩亀

大防止のため、調査を断念したので報告する。

心のふれあい広場 明るくい農村

平成14年7月、千枚田オーナーだった父の友人に勧められ、「農家民宿いちよしの樹」の女将(上田知子)さんに会いに来た松下周平さん。

梶原での就農を勧められ、あっさりと移住を決意、翌年には奈良県から梶原町に引っ越して来ました。

町の農業受け入れ組合の助けを借りて、町内の農家で1年間、梶原未来



松下周平さん

塾で2年間の研修を行い、現在は越知面の田野々に15aのハウスを構築、反収10tを目標に米ナスを栽培しています。JAの青壮年部の会長も務め、農閑期には、高齢化や作業者の不足で重労働となるハウス農家のビニール張替事業などにも参加。産地を守るための取り組みにも協力的で、これからの津野山の農業を支えていく仲間の

一人です。

就農してから18年、農業への想いを聞いてみました。労働力不足、高額の不足による農家の減少など、農業を取り巻く環境には厳しいものがありますが、この場所が頑張りがあったから。特に「田野々部落の人の優しさにかれたから」。

収益を上げること大切ですが、地域と関わりながら農業を続ける事で自身の成長にもつながります。一番は地域で、二番が農業というスタンス

を大事にしたいと話してくれました。その言葉どおり、4月からは、田野々部落の代表を務めることになったそうです。農業は、自然相手の仕事です。苦しいことや、辛いこともたくさんありますが、一方でそれらを上回る喜びと、やりがいがあるのも農業だと思います。松下さんのように就農するために移住する人が多くなれば、この地域の明るい未来につながるのではないのでしょうか。

森田呂弥 記



ビニール張り替え作業

あとがき

議員任期半年が過ぎ、折り返し点を迎えた。平成から令和へと新たな元号となり、併せて東京オリンピック、国を挙げてのお祭りに期待が隠せない想いを抱いた。

我が町、坂本龍馬脱藩街道に聖火、それをつなぐ聖火ランナーの想い、町をあげて期待と夢は大きく膨らんでいるさなか、豪華客船クルーズ号で新型コロナウイルス感染症が発生し、全国に拡散して早くも1年、様々な催し物やイベントすべて中止となった。当たり前のことが当たり前に出来ない。コロナ禍の中で何が出来るか、改めて議論を重ね、出来ることから始めることが急がれる。

令和3年3月定例会が開催、各会計当初予算67億円、対前年度比22%減で可決。大蔵谷に建設中であった梶原町生涯学習交流センターが完成、3月28日落成。4月より町内外の高校生ゆすゆ寮がスタート、勉学スポーツに活気あふれる明るい笑顔に期待する。

司馬遼太郎竜馬がゆく脱藩街道、小さな芝居小屋ゆすはら座の出会いが隈研吾であり、木を生かした設計が雲の上のホテル、その後、梶原町役場庁舎を含め8棟、隈さんが東京オリンピック国立競技場を手掛けた事で、町を訪れる国内外の観光交流見学者が急増している。

ホテルを含めた太郎川公園再生計画、国内外の見学者の足音が響くなかにあつて、暖かく受け入れる街づくりは不可欠と感じる。行政と全ての町民が一体となり、第一次産業、福祉、教育、観光に視点を注ぎ、豊かで明るい元気な町、ゆすはら未来駅に向かって議員一同、真剣に一歩一歩前に進んでまいります。今後ともご指導賜りますようお願いいたします。

西川豊正 記